

(第3種郵便物認可)

川口イーモノ、イーワザブランド

それぞれ6社を認定

社長ら「さらなる挑戦へ」

川口商工会議所(児玉洋介会頭)が優れた商品、技術を顕彰する川口イーモノブランド、イーワザブランドの2018年度認定式があり、ものと技でそれぞれ新たに6社、計12社を認定した。児玉会頭は「川口のものづくりの奥行きを改めて痛感し感動している」と語った。認定企業の社長たちは「さらにチャレンジして行く」と話した。(岸鉄夫)

伝統の技から 先端技術まで

イーモノでは、エム・コーポレーションが雨にぬれても泥水に漬かっても大丈夫なパソコンを開発。梅津睦秀社長は「こういうものが世界になかった。ならば自分で作る」と開発した。100件のニーズには100通の考えをよくな柔軟さが大事だ」と語った。

平たい板なのに見える視野が広い不思議なミラーを作るコミーの小宮山栄社長は「イーモノ、イーワザブランドに認定された企業の代表、児玉洋介会頭(前列中央右)と認定協議会会長の伊藤修・埼玉大学副学長(同左)川口市



く岩田仏壇の岩田晴芳社長は「これからも伝統の技を伝えていかななくては」と、熱い気持ちで語った。

イーワザ部門で、優れたレーザー加工技術で認定された「かねよし」の吉田竜一社長は「川口ブランドを作り上げていきたい」と語り、アンテナ支柱など通信用基礎構造物の新和製作所の佐藤博社長は「この認定を励みにさらに上を目指す」と力を込めた。鋳物製造にレーザー技術を取り入れた畑中製作所の畑中正之社長は「少しでも川口の発展に寄与したい」と述べた。ガラス表面に薄い膜をつくるコーティングで高い技術を持つ和鉦工業の増田幸夫社長は「これからもいろんな技術にチャレンジしたい」と話した。

部自社開発。これからは地元の人たちとの交流も深めたい」と話した。

直径1ミリ以下の医療用内視鏡用レンズの製造機を作る三協精機の加藤剛社長は「イーモノブランドの名に恥じないようさらに一層の努力をした」。江戸指物の技を受け継